

NASVA療護センター入院患者のナスバスコアを用いた初めての治療改善効果分析結果

○井口 斉

独立行政法人 自動車事故対策機構

【目的】独立行政法人自動車事故対策機構 (NASVA) では、自動車事故による脳損傷により重度の後遺障害が残り、治療と常時の介護を必要とする方のうち、一定の要件に該当する重度後遺障害者 (遷延性意識障害者) を対象として、治療・看護を行う専門病院 (療護センター) を全国4ヶ所に設置・運営している。平成17年度より適用を開始した『遷延性意識障害重症度評価表』 (ナスバスコア) による入院患者の改善度について、統計的手法を用いたデータ分析を実施し、その治療改善効果を検証する。

【方法】調査対象は、平成18年6月から平成21年6月までに療護センターに在院していた患者314名及び平成17年6月から平成21年5月末までに療護センターを退院された194名である。「ナスバスコア」は、6項目 (「運動機能」、「摂食機能」、「排泄機能」、「認知機能」、「発声発語機能」、「口頭命令の理解」) でスコア化 (各項目10点；最重症は合計60点) され、6ヶ月ごとに評価を行った。

【結果】平成18年度から平成20年度までの年度ごとの分析及び入院から退院までの分析のいずれにおいてもスコア平均値の減少が認められ、とりわけ入院から退院までのスコア平均値の変化は13.3点と著しい改善が認められた。さらには、入院から退院までの場合、入院時に「ナスバスコアが良いほど」「事故からの経過期間が短いほど」「年齢が低いほど」、より高い治療改善効果が認められた。

【考察】入院時に、「ナスバスコアが悪く」「事故からの経過期間が長く」「年齢が高い」方でも一定の改善が認められた症例もあることから、療護センターにおける質の高い治療・看護の実施は、遷延性意識障害者の改善に極めて有効である。